

平成24年度 第1回 行政改革推進委員会てん末

1. 日 時

平成24年 7月12日(木) 午後1時30分から午後4時20分

2. 会 場

上湧別コミュニティセンター 2階大会議室

3. 出席者

委 員：石渡会長、北村職務代理者、小関・後藤・小林・篠田・出口・馬場・町元各委員(欠席：朝日委員)

町 長：高山まちづくり推進課長・山田総務課長・水野財政課長
星補佐、斉藤係長、廣井主任

4. 配布資料

- (1) 第1回行政改革推進委員会議案
- (2) 行政改革推進委員会の附帯意見に対する町の考え方
- (3) 湧別町行政改革実施計画の推進状況
- (4) 参考資料1：行政改革推進本部事務局会議顛末書
- (5) 参考資料2：行政改革推進本部副町長会議顛末書
- (6) 参考資料3：行政改革推進本部会議顛末書

5. 会議顛末

- (1) 開会(高山まちづくり推進課長)

- (2) 会長あいさつ(石渡会長)

湧別町も合併して時間も経ってきており、事務・事業等の方向性の判断がつかような時期に来たのかなと思います。年に1回しかこの委員会は開けませんが、本日は皆様の忌憚のない意見をお聞かせいただきたいと思います。

- (3) 行政改革推進委員会の附帯意見に対する町の考え方について(斉藤係長説明)

【主な意見】

保育所及び学校の統合について

保育所の統合問題ですが、行政の立場では難しく手が付けられない問題と思います。登栄床の例として小学校の統合は40数年前になりますが、当時でも70人程の生徒が在籍していても、湧別市街の生徒たちとみんなで学ぼうということで統合に取り組みました。最終的には、賛成と反対が五分五分でしたが、リーダーが地域を積極的にまとめて統合を実現しました。統合して困ったことはないし、地域から学校が無くなることの寂しさだけだと思います。学校行事であった運動会や相撲大会は、地域の行事として取り組んでお

り、大人も子供も不平不満なく進んできました。

登栄床保育所の統合ですが、統合時の児童は27人、現在でも16人ほどの児童が地区に在住しています。行政が地域と話し合ってもすんなりと進まない話と思いますが、当時は、行政と相談して送迎バスを運行することを条件に、地域の人を説得して話を進めていきました。ですが、付帯意見に対する回答の文章では、協議に入ろうとしているのか、私には伝わってきません。まず、該当する地区の住民と話をし、輪を広げなければ、統合の話は進まないと思います。

周りの大人がどこに目線を置いているのかと思います。子供達の目線に立って教育や集団学習を考えたときに、小規模な保育所や学校の統合は避けられないことと思います。子供、一番の主役に目線を置いて、そのために、きちんと大人が助言してあげれば良いことと思います。統合を1年、2年遅くすることが子供たちに良いことなのか、考えて欲しいです。

本部会議の顛末の中には、合併協議での約束事として、当分統合しないとの意見があります。合併協議は、きちんと話し合っただけで決めたことですから、継続しなければならないことですが、子供達のためには、小規模な学校や保育所は統合して、ある程度集団で育っていかないと生きていけません。民生委員協議会でも、不自由な体の子供であっても生きていくためには、ある程度の集団で生活していかなければいけないという話がありました。

本部会議の顛末を見ると、行政側が学校・保育所の統合に関して動いていないことが見えてきます。先ほど、他の委員が発言しましたが、一部の親が統合に前向きなのに対して、検討、協議に入れない理由があるのですか。PTAが反対しているのであれば、理解できます。

審議会委員の公募について

例えば、社会教育委員は、以前には公募していたのですが、改選時に公募を無くしています。公募せずに、色々な意見が聞けるのかどうなのか、疑問を感じてしまいます。この6月から公募に関する統一した規則はできましたので、公募をしなくてはいけないのですが、この規則ができて、職員のやる気の問題です。

公共施設の管理運営について

顛末や資料を見せていただき、全てにおいて疑問を感じます。一つ例を言いますと、文化センター・さざなみに職員を配置してくださいということは、この3年間言い続けていて、付帯意見にも載せてあります。しかしながら、会議の顛末には住民には不便をかけていないとあります。あの施設は教育施設であり、この行革委員会が提言をしても、町として提言を聞かないのであれば、この委員会は必要無いと思います。

文化センターを有効に活用できる方法を検討するとありますが、この有効ということは、教育委員会をそちらに入れるということを含めての有効ということなのか、不便無く利用できる有効利用なのか、その辺だけ確認したい

と思います。

3つの方法があると聞いています。教育委員会全体が移る、生涯学習課が移る、文化振興係が移る。この三択から町長が判断すると聞いています。

その他全般について

本部会議顛末に、合併協議会が決めたことは、当面実施しない書いてありますが、合併協議会で決めたことが絶対と言うならば、色々な面で変えてきていることがあります。合併直後に、合併協議会で決定した事項にもかかわらず、すごく大きなことが覆されていることがあります。合併協議を理由に行革委員が意見を言うことがおかしいという考え方をする職員がいるのであれば、それこそ問題と思います。

合併してから2年、3年経って、色々な擦り合わせをして、整理することに時間がかかることは分かります。職員の方々は苦労していると思いますが、行革として委員会の提言に対して、どうなのか考える。納得のいく対応がないと委員会の存在価値が無くなってしまいます。

(4) 行政改革実施計画書の点検評価について(齊藤係長説明)

【主な意見】

町民との連携・協働

町民参加の推進 ・ 広報、広聴の充実(地域づくり懇談会の充実)

地域づくり懇談会について、様々な意見が聞かされております。女性の立場からすると、懇談会に出席してみるのが、自由に意見が言えないような雰囲気があるというご意見が寄せられますが、皆様方が出席した懇談会での状況をお聞きしたいと思います。

女性が意見を言えない雰囲気というよりも、基本的に女性の参加が少ないです。

自治会長をはじめ各役員が住民に何度も声をかけて、多くの方に参加をしていただけるような方法を取っていただかなければ、参加する人がどんどん少なくなっているという状況です。

地域づくり懇談会ですが、一人でも多くの方が集まった方が良いということで、登栄床地区では女性部の役員にお願いして出席を要請しているため、出席率が良くなっています。女性の方が鋭い意見が出され、元気が良いです。町のかわらばんや広報だけでは、人は集まらないと思います。各自治会長が真剣に取り組んで、役員を通じて住民に必要性をアピールしなければ大変と思います。

自治会連合会のコミュニティ研修会で発表する機会があれば、話ができるのですが、一般的な会議ではそこまで話をしても失礼と思ひ話はしておりません。

町民参加の推進 ・まちづくり参画制度の推進（委員公募制度の拡充）

各委員の公募のウエイトを高めていった方が良いと感じます。委員になっている人が重複し過ぎていると思います。

一人一委員というものを自治基本条例などに載せることはできないのですか。委員になれば、勉強すると思いますので、沢山の方が委員になった方が良いと思います。

地域コミュニティの支援 ・地域スタッフの充実

私は地域スタッフ制度に関心を持っています。去年の活動を見てみると、1回当たりのスタッフの参加率が2人となっており、私は残念に感じます。スタッフになった最初の1年間くらいは、特別な事情が無い限り、5人全てが出席して人の顔などを覚えていただきたいと思いますし、地域もスタッフ職員と密接に交流できるようにして欲しいと思います。まず呼びかける地域が心を開いていないと、担当するスタッフも硬くなってしまいます。

スタッフ班長の考え方によって、出席率も変わってきていると思います。私の地区でも班長が代わってから出席人数が少なくなりました。

時代に即した行政サービスの推進

事務・事業の見直し ・イベントの見直し

100km ウルトラマラソンですが、役場職員が参加したいと言ったときに、ある方から、なぜ出るのかと言われたという話を聞きました。

私が聞いたことは、担当課の職員は出場してはいけないということを知りました。担当係であれば、無理かもしれませんが、それ以外であれば参加させてあげべきだと思います。

公共施設の管理運営 ・施設機能の見直しと有効活用

合併を抜きにすれば、行政をコンパクトすることで、いくらでも意見が言えますが、合併があった中での行政改革であるため、我々委員も意見を出しにくいということがあります。

図書館などの施設、何もかも二つずつある中で、無駄でないかという話になりますが、合併後の町民感情を考えると、旧町お互いのことを考えながら発言しなければいけない部分も心のどこかにありますので、どうしても数字に表せない提言になってしまいます。次回、行政改革推進委員になる方は、そういったことを提言して、二つあるものを上手く利用することを議論していけば良いと思います。

色々な施設がありながら、宮の森センターの新築については、もう少し住民への説明が欲しかったという意見があります。もう少し考えて欲しかったことは文化センターの稼働率を検証すべきだったと思います。年間の稼働率を検証し、足りないから宮の森センターが必要ということであれば理解できます。単純に無いよりあった方が良く、4つ自治会の会長が町長に頼んで作

らせたという話もあり、行革を進めて中で、片方では何億もかけて施設を建てているという話があります。

もう一つは、なぜ町が葬儀場を建てなければいけないのか、農協や漁協などの民間に葬儀場を作ってもらうことはできなかったのか、また中湧別のお寺には立派な葬儀場もあります。そのようなことを住民は感じていますが、町が住民に理解をさせるような数字等を示してきちんと説明していません。副町長が建設委員長になっていて、言っていることと、やっていることが全然違うことが行われていて、どうなのかと思います。

町は町民から色々な意見を吸い上げ、それを叶えていくという形が多すぎます。要望を受けても、3年後に実施できるように善処しますということも必要だと思います。言われたことを全て叶えていく、それが今の形になってしまっています。そうではなく、町民は町民で要望を出します。行政は行政の立場として、今すぐやります、これはもう少し検討します、3年後にします。そういう線引きをするべきであり、今は二つ返事で全てやっているような気がしてなりません。

公共施設の管理運営 ・ 指定管理者制度の活用

指定管理者の件ですが、行革委員になって以来、納得がいきません。民間企業の管理ではなく、住民の手に戻す方法を真剣に考えた方が良いと思います。例えば、宿泊施設ですが、民間の施設はトイレが壊れてもすぐ対処できる金額ではなかった場合、ごまかしごまかし使っていますが、町の指定管理者はそれを町費で修繕をします。そこで、差が付きます。宿泊費用の差もあると思いますが、民業圧迫にならないようにしないと公平性は保てないと思います。

去年、えんゆう農協では開盛と富美のAコープ店舗を個人の方に経営をお願いしました。すると経費は半分になり、利益が伸び、黒字に転換しました。民間の方が経営努力することで、利益があがることがわかりました。

効率的な行政運営体制の確立

効率的な行政組織体制の確立 ・ 組織体制の見直し

本庁と総合支所で不便を感じませんか。総合支所を出張所や支所にすることで経費の削減には絶対に効果的だと思いますが、内部での検討はしていないのですか。我々から見ても不合理であり、総合支所の規模をもう少し縮小しても良いのではないかと思います。

5年、6年後、退職者が増えてくれば、必然的に総合支所の人員確保が難しくなり、総合支所の職員数は少なくなってくると思います。

全ての部門が総合支所に無ければならないということではなく、例えば保健センターや教育委員会は総合支所に置いて、その他は本庁に置いた方が効率的だと思います。

個人的な感想を言うと、総合支所に行ったとき、少人数がバラバラ散らば

っていて、閑散さだけが際立っていました。それよりもコンパクトに整理した方が良い気がします。もう少し活気があるように配置できないのかと思います。

定員管理及び給与制度の適正化 ・ 定員管理の適正化

職員定数ですが、2人、もしくは3人退職に対して1人採用するようですが、今後、10年、20年経った時の年齢構成は大丈夫ですか。単純に3人退職で1人採用で、職員数を減らしていただくだけでなく、年齢構成を見ながら職員採用計画を立てた方が良いと思います。

合併当初の職員数や議員定数は仕方ない部分があると思います。急に減らすのではなく、町の中には優秀な人材が沢山いるわけですから、採用しながら最終的にはコストを抑えられたら良いと思います。

【点検評価のまとめ】

(石渡会長)

検討中や協議中となっている事項について、担当課長とお話できる機会があると良いかもしれません。内部で協議して見てください。

新たに附帯意見として追加する事項は無く、今までの付帯意見で結論が出ていない事項を継続して付帯意見とすることとし、文面の内容は会長及び職務代理人に一任願いたい。 委員了解

以 上